

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ	ゴッホが見た日本							
科目名	課題演習Ⅰ・Ⅱ 国際教養演習Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語(e3)							
担当教員	高次 裕							
調査先	上野、東京都美術館							
調査日	2025年11月16日(日)							
参加学生数	1年生	0名	2年生	3名	3年生	2名	4年生	0名

計 5名

調査の趣旨（目的）

東京都美術館の企画展示「ゴッホ展」を見学する。授業では日本文化について日本人が論じたもの、ドイツ人（あるいは他の欧米人）が論じたものを扱っている。19世紀後半のオランダの画家ゴッホが日本の浮世絵に関心を持ち、集め、模写（例えば歌川広重の「名所江戸百景」）したことはよく知られている。本展覧会ではゴッホが収集した浮世絵も展示される。当日は上野公園内にある清水観音堂の「月の松」（歌川広重「名所江戸百景」にも描かれた）を見学したのち、美術館を訪問し知見を深める。

調査結果

東京都美術館の企画展「ゴッホ展」を見学した。授業では日本文化について日本人が論じたもの、ドイツ人（あるいは他の欧米人）が論じたものを扱っている。今回の見学調査は、美術という視覚文化の文脈にまで視野を広げるというコンセプトであった。19世紀後半のオランダの画家フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）が日本の浮世絵に関心を持ち、集め、模写（例えば歌川広重（1797-1858）の「名所江戸百景」）したことはよく知られている。本展覧会ではゴッホが収集した浮世絵も展示された。事前に2つの資料（2005年に東京国立近代美術館で行われた「ゴッホ展」のカタログおよびアムステルダムของゴッホ美術館のカタログ）を参照し、ゴッホがどの浮世絵作品を模写し、いかに影響を受けていたかを事前に確認した。当日は上野公園内にある清水観音堂の「月の松」（歌川広重「名所江戸百景」にも描かれた）を見学したのちに、美術館を訪問しゴッホ自身が収集した浮世絵作品や浮世絵から強い影響を受けているとされる作品（「種をまく人」1888年）などを鑑賞した。ゴッホが弟のテオに宛てた手紙の内容も紹介されており、その内容からもゴッホがいかに日本から影響を受け、どのように日本を見ていたかを知り知見を深めることができた。